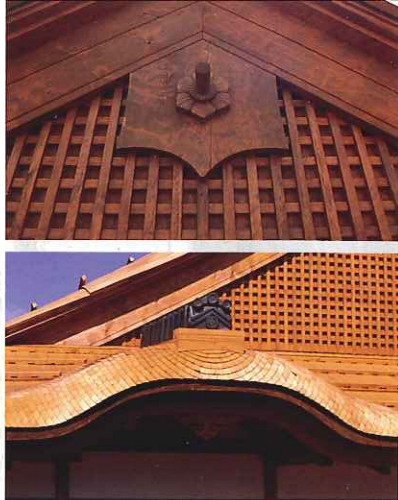


田峯城

だみねじょう

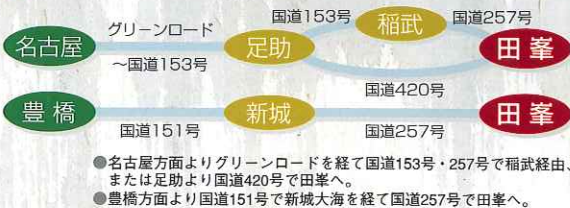


交通のご案内

公共交通機関をご利用される場合



車でお越しになる場合



利用のご案内

- 入城料金 大人 200円
子供(小・中学生) 100円
- 団体割引 20名以上1割引
- 開城時間 午前9時から午後4時まで
- 休城日 毎週月曜日・祝日の翌日
年末年始(12/29~1/3)

ホームページアドレス <http://www.town.shitara.aichi.jp>

お問い合わせ先

〒441-2221 愛知県北設楽郡設楽町田峯字城9番地
歴史の里 田峯城
TEL.(0536)64-5505

管理者

〒441-2301 愛知県北設楽郡設楽町田口字後口4番地4
設楽町公共施設管理協会

TEL.(0536)62-0991 FAX.(0536)62-1786

ホームページアドレス <http://www7.ocn.ne.jp/~shitara/>

戦国時代と田峯城

足利幕府の権威が失墜し、実力だけがものをいう下克上の時代に、奥三河で力を持っていた三氏族、田峯の菅沼氏、作手の奥平氏、長篠の菅沼氏を称して「山家三方衆」といった。そのうちの田峯菅沼氏の居城が田峯城である。

田峯城は、文明2年(1470)菅沼定信によって築かれた。その後、5代目城主菅沼定忠が、天正3年(1575)武田氏に従って長篠合戦に出陣し敗退、武田氏と共に逃れた定忠は、飯田において天正10年(1582)徳川方に捕らえられ、田峯城は従兄弟(菅沼定直の子)定利が徳川の命により城主となった。天正11年(1583)、定利が飯田郡代となり移住後、田峯城は廃城となった。(定忠は命を助けられ、徳川に属したと言われる。)

戦国大名

関東から中部にかけて、北条氏(小田原)、上杉氏(越後)、武田氏(甲斐)、今川氏(駿河)、徳川氏(三河)、織田氏(尾張)、など戦国時代を代表するそうそうたる顔ぶれが互いに牽制と侵略を繰り返していた。

山家三方衆

山家三方衆は、互いに姻戚関係にあり、一致団結して外敵に対抗していた。しかし、戦国大名の勢力の狭間で自衛と勢力拡大のために、時によっては団結が崩れ、血で血を洗う悲惨な争いをするようになる。



田峯城内乱

五代目城主の菅沼定忠は、家老城所道寿とともに、武田方に従い長篠合戦に出陣する。しかし、武田方が大敗、その報を受けた留守居の将・叔父定直と家老今泉道善らの謀反にあい、武田勝頼とともに引き揚げてきた定忠は、田峯城に入城できずに武節城を経由して信州に敗走することを余儀なくされる。

復讐を誓った定忠は天正4年(1576)7月14日、田峯城に夜襲をかけて謀反の一族96人を惨殺し、主謀格の今泉道善を鋸引きの刑に処した。

道善処刑の地 (道善畑)



長篠合戦で城主定忠に謀反した家老今泉道善の処刑の地。生きながら鋸引きにされたという。

首塚

謀反の一族老若男女96人を惨殺し、主だった者の首をここにさらしたという。



田峯城の建築

中世戦国時代の山城田峯城は、当時の武家屋敷をしるばせる書院造りという様式を用いて復元しました。

書院造りとは、それまでの公家文化でいう寝殿造りが増加して確立した建築様式です。中世の一時期には寝殿造りにおける「寝殿」の略化したものを「主殿」と呼び、公家、武家の間で一般化していました。田峯城の「御殿」は、この「主殿」を参考にしています。



御殿
様式：1層入母屋書院造、切妻中門、切妻色代、柿葺唐破風付き、板葺



廐
様式：切妻1層、板葺



上段の間(御殿)



大手門
様式：棟門、板葺



公卿の間(御殿)



物見台
様式：切妻1層2階、板葺

田峯城の図

田峯城は県下有数の高山である段戸連峰を間近に控え、寒狭川の溪流をはるかに見下ろす標高387mの独立丘陵にある山城です。

本丸より北西に道寿曲輪、啜曲輪、蔵屋敷、井戸曲輪が、最下段には表曲輪、裏曲輪、大手門跡が、東南方に離れ仕置場と「廐」があったといわれています。

本丸から見下ろした寒狭川の蛇行と城をいただく山並がまさに大蛇のようであることから、田峯城は別称「蛇頭城(じゃずがじょう)」、「竜の城」とも呼ばれていました。



1. 「本丸」(ほんまる)
本丸には「御殿」のほか、「廐」、見張りのための「物見台」、「本丸大手門」を当時の建築方法により復元しました。
※「廐」・「大手門」の位置は現状とは異なります。
2. 「御台様屋敷」(みだいさまやしき)
城主の奥方の屋敷があった場所です。
3. 「啜曲輪」(あぜくるわ)
狭い面積であることから、田峯では「なわてぐるわ」のことを「あぜぐるわ」と言っていたようです。
4. 「井戸曲輪」(いどくるわ)
井戸跡もなく、掘っても水の出る地形ではないため、天水を貯える設備があったと考えられます。
5. 「道寿曲輪」(どうじゅくるわ)
五代目城主、菅沼定忠とともに長篠合戦に出陣した家老城所道寿の屋敷跡であったようです。
6. 「蔵屋敷」(くらやしき)
蔵があった場所で、当時この蔵には、食物や武器などが保管されていたと考えられます。
7. 「無名曲輪」(むめいくるわ)
言い伝えに無いためこのように称されていますが、「帯曲輪(おびくるわ)」であると考えられます。
8. 「表曲輪」(おもてくるわ)
田峯城の入り口近く(表側)にあることから表曲輪と称されています。
9. 「裏曲輪」(うらくるわ)
表曲輪に対して裏手に位置することから裏曲輪と称されています。
10. 「空堀」(からぼり)
水をたくわえず「いぼら」などを入れて進入を阻んだ。
11. 「大手門跡」(おおてもん)
城の正門にあたる所であり、ここの扉を閉められて城主定忠は入城できなかったと考えられています。

田峯菅沼氏系譜

- 菅沼定直信濃守
作手郷菅沼に住む。
- 菅沼定成(新八郎伊賀守)
嘉吉年中(1441~1443)に田峯に移住する。
- 菅沼定信(三郎左衛門、貞吉、信濃守)
田峯城を築城(1470)し、田峰観音を建立(1470)、梵鐘を寄進(1481)する。
- 菅沼定忠(新三郎、定賢、大膳太夫)
武節城(豊田市武節町)、平井城(新城市)を築城する。
- 菅沼定広(新三郎、大膳亮)
大野(新城市)と井代(新城市)に築城する。
- 菅沼定継(新太郎、定綱、大膳亮)
石田(新城市)に築城し、しんしると称す。
兄弟で相対する布里合戦(1556)起こる。
- 菅沼定忠(小法師、新三郎、刑部少輔)
長篠合戦(1575)にて敗退。
天正10年(1582)5月10日飯田知久平にて捕らえられ、田峯城は従兄弟の菅沼定利が継ぐ。定利が飯田郡代となり、田峯は廃城となる。



田峰観音
三河三観音の一つ。
田峯城築城とともに城鎮護のため建立された。

